

製品名: RXR γ ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab17452

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	RXRG
別名	RXRG; NR2B3; Retinoic acid receptor RXR-gamma; Nuclear receptor subfamily 2 group B member 3; Retinoid X receptor gamma
遺伝子 ID	6258.0
SwissProt ID	P48443
免疫原	抗血清は、ヒトレチノイド X 受容体ガンマから合成されたペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 171-220

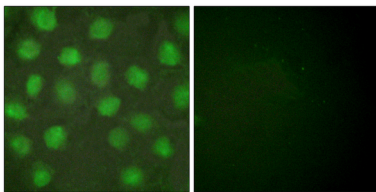
背景

レチノイドX受容体ガンマ (RXRG) ホモサピエンス この遺伝子は、レチノイン酸 (RA) の抗増殖作用を媒介する核内受容体のレチノイドX受容体 (RXR) ファミリーのメンバーをコードする。この受容体は、レチノイン酸受容体、甲状腺ホルモン受容体、ビタミンD受容体と二量体を形成し、それぞれの応答配列におけるDNA結合と転写機能の両方を増強する。この遺伝子は、非小細胞肺癌細胞において有意に低いレベルで発現している。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されている。[RefSeq提供、2010年6月];注意:ここに示す配列は、Ensembl自動解析パイプラインから得られたものであり、予備的なデータとして考慮する必要がある。、ドメイン:3つのドメイン(N末端調節ドメイン、DNA結合ドメイン、C末端ステロイド結合ドメイン)から構成される。、機能:核内ホルモン受容体。レチノイン酸応答経路に関与する。9-シスレチノイン酸(9C-RA)に結合する。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属する。NR2サブファミリー。、類似性:核受容体DNA結合ドメインを1つ含む。、

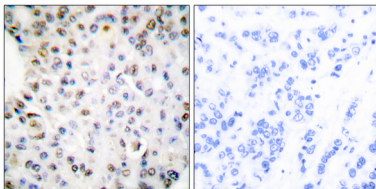
研究分野

PPAR;アディポサイトカイン;がんにおける経路;甲状腺がん;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

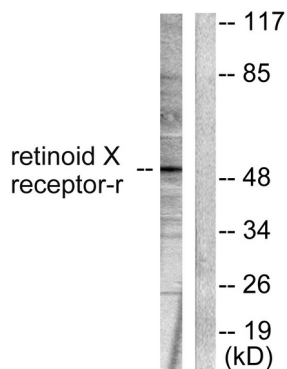
画像データ



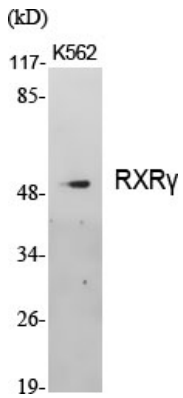
レチノイドX受容体ガンマ抗体を用いたHUVEC細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



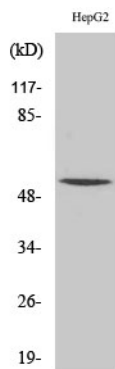
レチノイドX受容体ガンマ抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



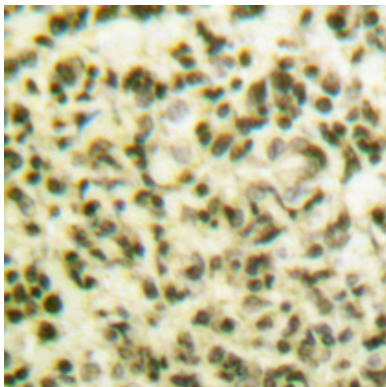
レチノイドX受容体γ抗体を用いたHepG2細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RXRγ ポリクローナル抗体を用いたさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



RXRγ ポリクローナル抗体を使用した HepG2 細胞のウェスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温 Tris-EDTA (pH8.0) を用いた。